



寒河江ダム

## 第 93 回目の GIS News! です

木々の緑が心を落ち着かせ癒してくれる心地良い季節です。天気の良い日は、おもいきって山へハイキングなどはいかがでしょう。

さて、今回は仕事だけではなく、旅行やレジャーの情報発信もできるGISとして、インターネットなどで使われているWeb-GISの話題です。

## Web-GISの動向

皆さん、ゴールデンウィークは、旅行に出かけましたか？  
その下準備は、どのように行いましたか？

今の時代、旅行に出かけるなどの宿泊先の予約・観光地の下調べ・旅行先までの道路案内情報など、インターネットで何でもできてしまいます。そういった中、それらのサイトには、必ず地図情報あり、それを利用して自分が知りたい情報を次々と検索していると思います。知らない間にGISは、皆さんの手の届くところに存在し、簡単に利用できるようになりました。

行政機関ではどうでしょうか。IT国家戦略である「e-Japan 重点計画」に基づき「行政の情報化及び公共分野における共通通信技術の活用の推進」を図っています。近年、GISシステムを利用した電子化が進み、行政の情報化が進んでいます。また、『行政の情報化』『共通の情報』を推進していく上で、地理情報データの取り扱いについても、最近注目されています。

その理由として、

- ・地図情報データの作成コストが高い為、自治体同士で地図情報データの共有をはかり、全体的な経費を抑える。
- ・ネットワークの発達に伴い、ネットワーク上に保管された地理情報データから必要なデータを検索・統合して利用する。

といったものです。こういった中、「GISの基盤となる地理情報データを、異なるシステム間で相互利用する際の互換性の確保を目的とした「地理情報標準」が、国土地理院より策定されました。

国土地理院 地理情報標準関連：<http://www.gsi.go.jp/GIS/stdindex.html>

これまで、Web-GISについてお話する場合、地理情報データを扱うシステムだけが注目されていました。技術の躍進において、比較的容易にシステム構築ができるようになった昨今、GISを利用する際の核となるデータ「地図情報データ」が注目されるようになってきたのも、ごくごく自然の流れではないでしょうか。

## 次回の GIS News!

今回は、2005年6月13日発行予定です。よろしくお付き合いください！

## Geographic Information System

記事：協同組合山形県地理情報センター 黒田 努 発行日：2005年5月25日

